

評価項目	重点目標	取組の内容と評価の観点（3.5ポイント以上・90%以上をA 2.5ポイント未満 7.0%未満をC）			中間評価（10月26日時点）		◎学校関係者評価	評価	期末評価	
		具体的な方策（取組）	★取組指標（4段階教員平均・前期比較）	★成果指標（肯定的評価・前期比較）	○成果と▽課題	●▼期末への方策等			○成果と▽課題	●▼次年度への方策等
確かな学力の向上	児童が、問いやめあてを主体的に追究でき、分かりやすい授業の実現を図り、学力を向上させる。 【施策1】	1 教員一人一人が学力向上マイプランを作成し、自分タイム・みんなタイム・振り返りタイムで構造化した四谷スタイルの授業を通して、分かりやすい授業を行う。 【研究推進委員会】	★教員アンケート①【共通】（3.8ポイント）A あなたは、分かりやすい授業を行っている。 4はい 3少しはい 2少しいいえ 1いいえ ★教員の取組指標①（3.6ポイント）A 4マイプランに基づいた授業公開を2回以上行い、他学級の参観を行った。 3マイプランに基づいた授業公開を2回以上行い、他学級の参観を行わなかった。 2マイプランに基づいた授業公開を1回以上行った。 1上記以下	★児童アンケート⑨（R6 94.1%）A 先生の授業は分かりやすいと思う。 ★保護者アンケート⑧【共通】（R6 89.4%）B 四谷小の先生は、分かりやすい授業を行っていると思う。 ★保護者アンケート⑨（R6 88.3%）B 四谷小の先生は、子供たちに基礎・基本の学力をつける指導に力を入れている。 4はい 3少しはい 2少しいいえ 1いいえ	○児童アンケート⑨は昨年度と同様で、授業が分かりやすいと感じている児童が多い。 ○各教員が学力向上マイプランを継続的に作成し、授業改善に取り組んでいる。	●後期に保護者アンケートを90%の達成率を目指して、全教職員が学力向上マイプランに示した授業改善の取組を進めていき、分かりやすい授業を継続して目指していく。	◎学校長が明確に四谷小学校で実施したい教育ビジョンを示している。 ◎分かりやすい授業は継続すべきだが、一人一人の実態把握は教員の負担にならないようにする。	A	○児童アンケート⑨は、中間より肯定的意見が高まった。各教員が「四谷スタイル」の授業を実施している結果といえる。 ▽保護者アンケートは昨年度に続き、B評価となっている。しかし、A評価に近いポイントとなった。	●学力向上マイプランに基づいて、全ての教科で「四谷スタイル」の授業を継続して推進する。 ▼次年度は、保護者の肯定的評価をAに近付けることができるように、ドリルパーク等で基礎的な知識や技能の定着を図り、学力下位層の減少に努める。
		2 Iタイムの計画に基づいて、学習のねらいの実現に向けて教師と児童がGIGAタブレットを効果的に活用した授業を行うだけでなく、モジュール学習や家庭学習などでGIGAタブレットのドリルパークを活用して基礎的な内容の定着を図る。 【情報部】【研究推進】	★教員アンケート②【共通】（3.6ポイント）A あなたは、「主体的・対話的で深い学び」の視点で、タブレットPCなどを活用している。 4はい 3少しはい 2少しいいえ 1いいえ ★教員の取組指標②（3.4ポイント）B 4ドリルパーク以外のソフトを活用して授業のねらいに応じた活用を毎日3回以上、教師も児童も活用した。 3授業のねらいに応じてタブレットを毎日3回以上、教師も児童も活用した。 2授業のねらいに応じてタブレットを毎日、教師も児童も教室等で活用した。 1上記以下	★児童アンケート⑥（R6 90.7%）A 実物投影機やパソコンなどを使った授業は分かりやすく楽しい。 ★児童アンケート⑦【共通】（R6 88.6%）B タブレットPCなどを使って、「調べる」「まとめる」「伝え合う」授業が好きだ。 ★保護者アンケート⑩【共通】（R6 79.2%）B 四谷小は、タブレットPCなどを使って、子どもが「調べる」「まとめる」「伝え合う」授業をよく行なっていると思う。	○教員がタブレットPCを積極的に活用しているため、ICT機器を使った授業が分かりやすいという肯定的意見の児童が多い。 ▽保護者へアンケート⑩は昨年度よりも18%低い結果となった。	●ベネッセと連携し研修を行うことで、教員の活用スキルがアップしたため、継続して研究を計画する。 ▼学校公開や学年だより、学級だより等でタブレットPCを活用している授業場면을積極的に公開する。	◎児童がタブレット端末をよく使用し、学習のツールとして上手に活用している。 ◎教室の掲示物が多く、授業の様子が伝わる。		○児童は、GIGAタブレットの活用に慣れ、中間申告よりも児童アンケート⑥・⑦については、アプリの新しい機能も加わったことで評価が向上した。 ▽保護者アンケート⑩は、中間アンケートよりは評価が向上したものの80%を下回り、課題が残った。	●児童アンケートの評価を90%以上の評価を維持できるように、Iタイムの指導を徹底し、児童のGIGAがタブレットのスキル向上を目指す。 ▼中間報告同様、学校公開や学年だより、学級だより等でタブレットPCを活用している授業場面を計画的に公開する。
		3 第4学年以上の学年で、教師の持ち味が生きるような交換授業を実施することを通して、児童理解の伸長及び準備の効率化と指導の充実を図る。 【教務部】	★教員アンケート③【共通】（未実施）（3.6ポイント）A 教科担任制の導入は、様々な教員による児童理解や、わかりやすい授業づくりにつながると思う。 4はい 3少しはい 2少しいいえ 1いいえ	★児童アンケート⑩R5未実施（R6 85.5%）B 教科担任制の先生が教えてくれる授業はわかりやすいと思う。 ★保護者アンケート⑫R5未実施（R6 88.9%）B 教科担任制の取組は、様々な教員による児童理解やわかりやすい授業づくりにつながっていると思う。	○今年度より実施している交換授業は、教員の肯定的意見が非常に高い。	●教員の得意分野を生かし、後期も引き続き授業の充実を目指す。多くの教員の目で子供たちのよさを引き出した授業を展開していく。			○4年生以上で教科担任制を実施したことで、学年の担任は、学級の児童だけではなく、学年の児童の特性を理解できた。	▼学級数も増え、次年度は3年生以上で教科担任制を実施するため、特別教室等の活用については、時間割の調整をきめ細やかに行う必要がある。
豊かな心の育成	学校行事や学級活動、道徳教育を通して、人権意識や規範意識の向上に努め、支持的風土のある学校を作るとともに、特別支援教育への理解伸長と具体的支援や支援体制の充実を目指し、児童が安心して生活できる環境の実現を図る。 【施策2】 【施策8】	1 挨拶や言葉遣い、早寝・早起き・朝ごはんなどの基本的生活習慣の定着や規範意識の向上に向けて集団生活や社会のルールを明文化して教職員で共通理解を図り、保護者と協働する取組を積極的に進める。 【生活指導】	★教員の取組指標④（3.4ポイント）B 4以下の3の取組に加えて、学級でも工夫した取組を行った。 3以下の2の取組に加えて、学年で工夫した取組を行った。 2毎日の挨拶指導と長期休業明けの生活習慣改善の指導を行い、課題がある児童は個人面談等で保護者に伝えた。 1上記以下	★児童アンケート④（R6 88.8%）B 四谷小の友達と、元氣よく挨拶と返事ができていると思う。 ★児童アンケート⑬（R6 81.5%）B 早寝、早起きをして、朝ごはんを食べている。 ★保護者アンケート⑤（R5 71.5%）B 四谷小の子どもたちはあいさつの習慣が身に付いている。 ★保護者アンケート⑥（R6 82.7%）B 四谷小の子どもは思いやりの心や社会のルールを守る態度が身についている。	○保護者の肯定的意見が、毎年70%を下回っていたが、70%を越える評価となった。 ○全校朝会やあいさつ運動を進めることで、児童アンケート④の結果が数%ではあるが年々肯定的意見が増えている。	●スマイルクラブや学校のホームページ、学校だより等であいさつ運動の様子を取り上げた成果が保護者や児童の意見が肯定的に高まってきた結果である。	◎あいさつ運動に参加する保護者が少しずつ増えてきた。スマイルクラブのホームページ等も活用し、さらに人数を増やしていきたい。	A	○中間だけではなく、後期の評価も保護者の肯定的評価が70%を越えた。また、児童アンケート④については、90%に近い肯定的評価となった。学校で取り組んでいる「あいさつ運動」の効果の表れである。	●児童、保護者ともに肯定的評価が高まっていることから、今後も継続してスマイルクラブや学校のホームページ、学校だより等であいさつについての活動を取り上げ、そのよさを推進していくようにする。
		2 長期休業明けの基本的生活習慣の改善を促す取組を行うとともに、いじめアンケートやいじめ防止授業を行い未然防止に努める。 【生活指導部】	★教員アンケート④【共通】（3.8ポイント）A あなたは、児童の話聞くなど、交友関係の把握やいじめの早期発見に努めている。 4はい 3少しはい 2少しいいえ 1いいえ ★教員の取組指標⑤（3.5ポイント）A 4以外の3の取組に加え、学年・学級等で工夫した取組を行った。 3いじめ未然防止の授業を行い、いじめアンケートで解消に向けた取組を行った。 2いじめアンケートにより解消に向けた取組を行った。 1上記以下	★児童アンケート⑮（R6 99.3%）A いじめはいけないことだと思う。助けないのもいけないと思う。（ぼう力、らんぼうな言葉、いやがることを言う、無理にさせる、ものをとる、かくす、無視する） ★児童アンケート⑯【共通】（R6 91.8%）A いじめなどの問題があるときには、すぐに先生に相談することができる（しよと思う）。 ★保護者アンケート⑯【共通】（R6 93.2%）A 子供にいじめやいじめの疑いがある時には、学校に相談することができる。（しよと思う。）	○いじめについてのアンケート項目は、児童も保護者も肯定的な意見が高い。児童アンケート⑯は、年々肯定的意見が高くなっている。 ▽教員の取組指標⑤は、評価については、評価の指標が二分している。	▼教員がアンケート結果を効果的に生かすことができるよう、Hyper-QUの結果を踏まえた取組やいじめ防止プログラムの活用を副校長と生活指導主幹が連携して研修会を実施する。	◎いじめ防止のシステムが機能し、組織的な対応ができている。登校している児童の表情も明るい。		○児童アンケート⑮については、100%に近い評価となり、いじめはいけないという認識がある。 ○教員は、いじめアンケート等をもとに児童理解に努め、未然防止に努めている。また、いじめ案件があった場合には、組織的に早期対応ができている。	●いじめ対策委員会を定期的に開催し、いじめの未然防止に努めた。今年度の組織的な運営を次年度も継続できるようにする。 ▼十分にいじめアンケート等を活用できていない教員もいるため、次年度は年度当初に活用のための研修会を設ける。
		3 対象となる児童の合理的配慮を検討して個別指導計画を作成・活用したり、校内委員会を定期的に開催して具体的・組織的な支援の充実を実現したりする。 【特別支援委員会】	★教員の取組指標⑥（3.7ポイント）A 4学級生活支援シートと個別指導計画の作成・活用、学年や専科との情報共有、学級での適切な支援を行った。 3学級生活支援シートと個別指導計画の作成・活用、学級での適切な支援を行った。 2学級生活支援シートと個別指導計画の作成を行って支援をした。 1上記以下	★児童アンケート⑰（R6 86.4%）B 学校へ行くのは楽しい。 保護者アンケート②（R6 92.7%）A 四谷小の子どもたちは仲よく生活しており、学校での様子は楽しそうである。	▽低学年に登校しぶりの児童も多く、児童アンケート⑰の結果が80%を下回った。 ○保護者アンケート②は毎年90%以上の肯定的意見である。	●令和5年の入学児童から保護者と離れられず登校しぶりが増えている。敵機的に校内委員会を開き、児童理解に努め、保護者との連携を深めている。			○児童アンケート⑰の結果は、中間と比べ、10%以上、肯定的意見が高まった。不登校対策委員会等を定期的に行い、改善策を練った結果である。	●特別支援教育の充実に向けて、校内支援シートを整理し、どの児童が対象であるのかを次年度にも引継ぎ、教職員で一丸となり児童理解を深めていくようにする。

様式

体力の向上	増築校舎建設に伴う校庭面積の減少に対応して、体育授業の実施や運動の日常化を図り、体力を維持・向上させる。 【施策2】	1 トップアスリート等を招聘するとともに、体育授業の工夫・改善をして体力向上の取組を学年・学級でも推進する。 【体力向上委員会】	★教員の取組指標⑦ (3.5ポイント) A 4年間1回以上外部講師を招いた体育授業の実施と、学級での体育授業の工夫・改善の両方を進めた。 3学年で1回以上外部講師を招いた体育授業を実施した。 2学年や学級で体力向上体育授業の工夫・改善を継続して進めた。 1上記以下	★体力テストの結果で都平均を超えている種目等 ○概ね全国平均程度・都平均より高い。全108項目(男女別9項目)中で都平均以上は68項目。 1年男：4項目 2年男：6項目 3年男：8項目 4年男：6項目 5年男：8項目 6年男：7項目 1年女：5項目 2年女：3項目 3年女：8項目 4年女：3項目 5年女：4項目 6年女：6項目	▽10月以降にトップアスリートを招聘する授業を計画している学年が多く、教員の取組指標は昨年度の中間報告より0.5ポイント低い。	●10月以降、オリンピック選手やサッカーの一流プレーヤーを招聘する授業が多く、多くの学年で計画されている。	◎校庭の使用に制限のある中で、PTA活動と連携を図り、体力の向上に努めることができている。	A	○体力テストの結果は、校庭の活用できる制限はあるものの、都平均よりも高い状況を維持できた。 ○各学年でトップアスリートを招聘した授業を行い、スポーツへの関心が高まった。	●次年度は、5月から10月にかけて、校庭の使用ができないため、体力テストの結果を維持するために、教育委員会と連携を図りながら、運動ができる施設の確保を図る。
		2 新宿ギネスやコーディネーショントレーニングなどに取り組む時間を保証し、体力の向上や運動の日常化に努める。 【体力向上委員会】	★教員の取組指標⑧ (3.1ポイント) B 4新宿ギネスやコーディネーショントレーニングに加えて体力向上の取組を独自に実施した。 3新宿ギネスとコーディネーショントレーニングを行った。 2新宿ギネスに取り組み、児童に記録を残させた。 1上記以下	★児童アンケート⑩ (R6 78.6%) B 休み時間は、校庭や屋上でよく遊んでいる。	▽校庭の工事や運動会の実施時期を重視したため、新宿ギネスの取組については、11月以降に重点をおくようにした。	●体力向上部を中心に、11月にコーディネーショントレーニングのミニ研修会を設定している。	◎オリンピックやトップアスリートととの交流活動が多く、大変よい機会となっている。		○「長縄跳び運動」は充実してきた。 ▽児童アンケート⑩については、肯定的評価が80%を下回った。	●新宿ギネスは、動機づけを工夫したい。 ▼児童アンケート⑩については、施設の関係で肯定的評価を高めるには限界がある。
創意工夫ある教育	学校の特色ある活動である「天童市干布小学校との姉妹校交流」や「四谷子ども園との交流」を継続する。 【施策4】	1「天童市干布小学校との姉妹校交流」では作品や動画、GIGAタブレットによるオンライン交流を取り入れた交流活動を全学年で進める。 【天童委員会】	★教員の取組指標⑨ (3.4ポイント) B 4山形県や天童市、干布について学ぶ機会を設け作品送付などの交流とオンライン交流を合計で2回以上行った。 3山形県や天童市、干布について学ぶ機会を設け、作品を送るなどの交流を1回以上行った。 2干布小に作品を送るなどの交流を1回以上行った。 1上記以下	★各学年の交流の実施状況 6年 東京ガイドマップ 5年 日本の魅力を切り拓こう 防災成果物の交流 4年 東京の地理ガイドマップ 3年 新宿区(四谷)の紹介マップ 2年 四谷のまちたんけん紹介 1年 アルバム写真交流	○6年生の天童との夏の交歓会を実施することができた。4年生を中心に、作品交流を行い、実際に干布小で児童の作品が展示されている。	●夏の交歓会で引率教員が干布小に展示されていた作品を児童に見せたことにより、さらに作品交流に児童が意欲を沸かせていた。	◎天童市干布小学校、四谷子ども園と交流活動は大変よくできている。	A	○全学年が作品交流を行うことができた。 ▽計画通りに交流を行うことができなかった学年もあり、調整を行うことがあった。	▼次年度は、天童委員会を中心に、計画的に作品交流が行われているのかの進捗状況を年間計画を振り返りながら徹底させる。
		2「四谷子ども園との交流」は、感染症防止対策を行った上で、全学年で1回以上交流の機会がもてるように努める。 【教務・保幼子小交流】	★教員の取組指標⑩ (3.5ポイント) A 4直接交流と間接交流を年間で2回以上行った。 3直接交流を1回以上行った。 2間接的な交流を1回以上行った。 1上記以下	★各学年の交流の実施状況 6年: ふれあい交流(スポーツを通して) 5年: 交流給食 運動会表現披露 子ども園との交流会 4年: 体育行事発表会 3年: 絵本の読み聞かせ 2年: お気に入りの物語を読み聞かせ 1年: おもちゃフェスティバル	▽計画的に教員相互に打ち合わせわせを行っているが、交流は11月以降に実施する学年が多く、教員の評価は低い。	●各学年が、できる限り直接交流ができるように計画をしている。特に11月に多くの学年が交流予定である。	○全学年、計画通り実施できた。また、5年生に関しては、総合的な学習の時間も活用し、直接的な交流の機会が増えた。		●次年度のかけ橋期の研究指定に向けて、「かけ橋プロジェクト」を充実させるために、四谷子ども園と連携を図りながら次年度計画を立てる。	
地域連携	地域協働学校として、家庭や地域と連携した取組や地域人材活用を充実させることで地域とのつながりを深める。 【施策4】	1スクールコーディネーターやPTAと連携して、読書支援、環境美化、あいさつ運動、天童交歓会運営、金管バンド支援、安全見守り活動の支援を受けたり、外部人材を活用したりして教育活動を進める。 【副校長・学年主任】	★教員アンケート⑥【共通】 (3.8ポイント) A あなたは、児童が学校に関わる地域の人と一緒に活動する機会に積極的に関わっている。 4はい 3少しはい 2少しいいえ 1いいえ ★教員の取組指標⑪ (3.8ポイント) A 4学級や専科で2回以上の教育活動の支援を受けた。 3学級や専科で1回は教育活動の支援を受けた。 2間接的にゲストティーチャーや教材の支援を受けた。 1上記以下	★児童アンケート⑭ (R6 93.4%) A 学校に関わる地域の人(スマイルクラブの皆さん)から様々なことを教わったり、一緒に活動したりしたことがある。 ★保護者アンケート⑭【共通】 (R6 89.0%) B 学校は、子どもが学校にかかわる地域の人(スマイルクラブの皆さん)と一緒に活動する機会をよくつくっていると思う。	○教員、保護者共に、地域との連携・協力や地域人材の活用について肯定的意見が多い。 ▽児童アンケート⑭は、昨年度より22%肯定的意見が低くなっている。	▼児童へのアンケートを行う際、活動についての補助説明を教員が行う必要がある。後期のアンケートでは、学年に合わせて説明を加えて実施するようにする。	◎学級数が増え、地域のお店探検、防災・防犯マップ作り等については、調整が難しくなってきた。	A	○教員の自己評価より、全学年で2回以上、地域教材や人材を活用して学習効果を高めることができた。 ○児童アンケート⑭、保護者アンケート⑭より、地域との連携教育の充実が図られている。	▼金管バンドや天童市との交流活動は、一部の教員の努力で運営されている。特別委員会の役割を明確にして、組織的な対応を図る必要がある。
		2学校だよりや学年だより、学級だより、学校メールやHPを使って、学校の教育活動の様子を計画的・積極的に発信する。 【副校長・副校長補佐・情報部】	★教員アンケート⑦【共通】 (3.5ポイント) A あなたは、日頃の教育活動の様子などを、保護者会や学級だより等で分かりやすく伝えている。 4はい 3少しはい 2少しいいえ 1いいえ ★教員の取組指標⑫ (3.6ポイント) A 4担当する学年・専科・分掌はHPを月1回以上更新した。 3担当する学年・専科・分掌はHPを学期1回は更新した。 2担当する学年・専科・分掌はHPを年1回以上更新した。 1上記以下	★児童アンケート⑯【共通】 (R6 83.5%) B 学校での授業や行事のことなどについて、家の人に自分から話している。 ★保護者アンケート⑯【共通】 (R6 85.2%) B 学校は、日頃の教育活動の様子などについて、保護者会や学校だより、ホームページ等で分かりやすく伝えていると思う。	○保護者アンケート⑯は、90%以上の肯定的意見となった。ホームページ担当が学年行事があると、様子を分かりやすくアップした成果が出た。	●手紙についても、すぐるアプリを活用して定期的に情報発信した結果が、高い評価につながったと考えられるため、継続してアプリを利用して情報発信を行う。	◎電子化で便利になってはいるものの、自分で手紙を親に渡すという習慣は大切にすべきだと感じる。		○すぐるのアプリを活用し、学校から配布の手紙については、計画的に保護者に伝えることができた。 ▽アプリを活用するにつれ、児童が保護者に手紙等を見せる習慣がなくなりつつある。	●PTA組織とも連携を図り、配布物を計画的に保護者に示すことができた。しかし、児童にも継続して手紙を保護者に渡す習慣も大切にし、情報を各家庭で確認することの大切さを継続して伝えていく。
学校独自の取組	新宿区の方針に基づき、学校の実情に応じた働き方改革をすすめる。 【施策9】	1働き方改革をすすめる。 ・最終退勤時刻や定時退勤日の設定し奨励する。 ・計画の整備とデータの保管・共有を推進する。 ・目的と必要性を吟味し行事や校務を精選する。 【管理職・企画委員会】	★教員アンケート⑦【共通】 (3.5ポイント) A あなたは、共有フォルダを活用して教材を共有化するなど、効率のよい教材準備の環境づくりに努めている。 4はい 3少しはい 2少しいいえ 1いいえ ★教員アンケート⑧【共通】 (3.5ポイント) A あなたは、働き方改革について区を取組を理解し、ワークライフバランスを意識して業務を行っている。4はい 3少しはい 2少しいいえ 1いいえ	★保護者アンケート③ (R6 94.0%) A 教職員は、誠実に子どもや保護者に接している。	○教員は、共有フォルダを効果的に活用したり、交換授業を行ったりすることで、時間を意識しながらワークライフバランスを意識して働いている。	●後期も誠実に子供や保護者と向き合いながら、自らの働き方改革も意識して仕事に取り組むことができるように環境を整えていく。	◎教員の働き方改革に取り組んでいることはとてもよい。放課後等に起こったトラブルについては、学校ではなく、保護者が中心となって解決していくことが強くのぞまれる。	A	○タイムレコーダーを活用し、各教員が、年間を通して意識しながら勤務時間を調整した。	●教員間で掲示板を活用して情報共有を図り、ペーパーレスに努めるように、次年度以降も電子データで情報の共有を図るようにする。
		令和5年度全国大会の成果を継続・発展させて、総合と社会を中心に実践研究を通して、主体的・対話的で深い学びを推進する。 【施策1】	1年間通して授業研究の実践と協議を通して、総合的な学習の時間、生活科や社会科の探究的な授業づくりの方策について研究をすすめる。 【研究推進委員会】	★教員の取組指標⑭ (3.6ポイント) A 4以下の3の取組に加えて、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る工夫した授業に取り組んだ。 3以下の2の取組に加えて、四谷スタイルの授業に取り組んだ。 2生活科での体験的活動や総合的な学習と社会科で問題解決的な学習を行い、振り返りカードや学び方カードを継続的に活用して見通しと振り返る力を高める。 1上記以下	★社会科アンケートの回答(全国平均ポイントの差R5年度) ① 学習問題を決めてその解決のために調べたり考えたりすることができる。 4年12P↑ 5年21P↑ 6年14P↑ A ② 自分の考えを資料などを使って説明することができる。 4年12P↑ 5年21P↑ 6年8P↑ A ③ 調べたことをもとに自分の考えを書くことができる。 4年12P↑ 5年14P↑ 6年12P↑ A ④学習問題やテーマを決めて討論(話し合い)することが好きだ。 4年7P↑ 5年8P↑ 6年12P↑ A	○12月にアンケートを行う予定であるが、四谷スタイルの授業を教員が意識しながら授業を展開している。	●学び方カードや学年に応じた振り返りカード等を継続して活用し、12月に行う児童アンケートを踏まえ、自ら課題を追究できる児童を育てられるように授業づくりに力を注いでいく。		○社会科アンケートの結果より、4年生から6年生までが意識調査の結果が、全国の平均よりも、全ての結果が上回っている。	●次年度も、社会科を中心に研究することを通して、学習に対して意欲的に取り組むことができるように、児童が主体的な学びができるような研究活動を進めていく。

